

中学校段階における TSLT (Task Supported Language Teaching) シラバスを基にした英語指導の研究

愛知県／名古屋市立守山東中学校 教諭 山田 慶太

概要

本研究では、第2言語習得研究で注目されている Task Based Language Teaching (TBLT) の理論を基に、より中学校段階の英語学習者に適しているとされる Task Supported Language Teaching (TSLT) の理念 (Ellis, 2009; 高島, 2000, 2005) を基礎とした英語指導を実践する。中学3年生を対象に設定した TSLT シラバスにおいて、7月、10月、12月、2月と計4回の「タスク活動」を実施した。「タスク活動」に取り組む学習者の発話を録音し、学習者自身に振り返らせ、指導者は発話に共通して見られる誤り等を分析し、学習者自身の「気づき」を重視しながらフィードバックとしての文法指導を行った。学習者がタスク活動の最中にやり取りするメッセージの中心となる「過去形」と「現在完了形」の正確かつ適切な使用に着目しながら、シラバスの根幹となる、①文法指導→②タスク活動→③フィードバックとしての文法指導、という指導手順の有効性を授業実践を通して検証した。

に則ったものであることが多いようである。現行の学習指導要領施行下、実践的なコミュニケーション能力につながる言語活動を充実させることが重要である。そのためには、PPPの指導手順のProductionの段階で学習者が取り組む言語活動を、未体験の場面設定の中で既習の表現を使い分けながらメッセージを伝え合うような、実践に近いものにする必要があると考える。

筆者が本研究のテーマである TSLT (Task Supported Language Teaching (Ellis, 2009)) という指導理念、特にその中心にある「タスク」に注目したのは、「タスク」が学習者に「使用 (Use) の場面」を意識させ、「タスク」に取り組む学習者の間でなされる「メッセージのやり取り」や、課題達成に向けてなされる「交渉」が、実践的に英語を使う場面を学習者に提供し、英語運用能力を育成できる言語活動であると考えからである。

1 はじめに

旧学習指導要領 (平成14～23年度) 施行後、多くの中学校英語指導の現場において、言語活動が授業に取り入れられるようになってきた。これは、知識の獲得だけでなく、実際に英語を使う場を提供することで、学習者に英語でコミュニケーションを図ろうとする姿勢を身につけさせることをめざしてのことであると考えられる。

そしてその言語活動を含む授業は、PPP (Presentation - Practice - Production) の指導手順

2 TSLT シラバスについて

2.1 TBLT と TSLT の違い

1990年代より「タスク」をシラバスの軸とし、言語学習を促進しようとする TBLT (Task Based Language Teaching) について研究が進んでいる (高島, 2010)。それは、第2言語習得において、タスクという言語活動の中で言語による意味のやり取り (交渉) やそれに付随するフィードバックが言語習得を促進し (Ellis, 2009)、相手に理解してもらえるように発話しようと努力することが第2言語の発達のために重要であるからである (Swain, 1985,

2005)。しかし、日本のような教室外でのインプットやアウトプットが十分でない EFL 環境においては、TBLT シラバスよりも、文法指導の内容と言語活動を両立させ、必要に応じて「タスク的な言語活動」を取り入れる TSLT (Task Supported Language Teaching) シラバスが有効であるとされている (Ellis, 2009; 高島, 2000, 2005)。

また、文法構造別に構成されている検定教科書を中心とした指導が展開される中学校においては、使用する文法構造が指定される Focused Task である「タスク活動 (高島, 2000, 2005)」を既習文法構造を総合的に用いる発展的な Production 活動として取り入れる TSLT シラバスが現実的かつ有効であると考える。

2.2 「タスク」と「タスク活動」

「タスク」には、目標を達成するためにやり取りするメッセージの内容も使用する文法構造もすべて発話者が自由に選択する Unfocused Task と、それらがある程度指定されている Focused Task の 2 種類がある。TSLT シラバスで学習者が取り組む「タスク活動」は、Focused Task のカテゴリーに属し、さらに下位区分された、言語構造を学習者に意識させる Structure Based Task の一種である (高島, 2000, 2005)。

「タスク活動」では、学習者がメッセージのやり取りをするために用いる文法構造がある程度指定されるだけでなく、中学生のように英語運用能力が限られている場合でもタスク (達成すべき課題) を到達しやすいように、活動に段階を追った指示が与えられている。活動シートに記載された指示 (資料 1) は、指導者が求める文法構造を学習者が使うように工夫されたものになっている。また各指示は、日本語をそのまま英語に直すようなものではなく、学習者が会話を進めるためのヒントとしての役割を担う暗示的なものになっているので、メッセージをやり取りする上での自由度を残しており、「タスク」に近い効果が期待できると考える。

その他の「タスク」と「タスク活動」との違いを表 1 に示す。「タスク活動」では、2 つ以上の文法構造を比較しながら使うことが求められ、また、活動を興味深いものにし動機づけに重きが置かれており、英語学習入門期の中学生に適していると考えられる。

■ 表 1: 「タスク (Task)」と「タスク活動 (TA)」の主な特長の比較 (高島, 2005, p.11)

特徴	Task	TA
1. 意味内容の伝達に重きを置く	◎	◎
2. 活動目標の達成 (過程) に重きを置く	◎	◎
3. 情報の授受・交換の有無	◎	◎
4. 情報 (量) の差	◎	◎
5. 段階を追った指示の有無	×	◎
6. モデルダイアログ、または、使用する文法構造などの指定の有無	×	×
7. 2 つ以上の文法構造の比較の有無	○	◎
8. 意味のやり取りの有無	◎	◎
9. 活動や得られる情報に対する興味、動機づけに重きを置く	○	◎

(注) 表中の◎○の印は、各項目の必要条件を表し、◎は必須、○はある方が望ましい、×は不要であることを示している。

2.3 TSLT シラバスと従来型シラバスの指導手順の違い

本研究で設定した TSLT シラバスにおいてタスク活動を中心に実践する指導手順と、旧学習指導要領施行下に言語活動を中心に多く導入され、筆者も昨年度まで取り入れていた PPP の指導手順に則った従来型の指導手順を表 2 に示す。

まず、従来型の指導手順では、Step 1~3 までを 1 つのサイクルとしている場合が多い。「現在完了形」を指導する場合、【継続】、【経験】、【完了】の 3 種類の指導にそれぞれ 1 サイクルずつ、計 3 サイクルの指導を行うことになる。また、3 つの用法 (【継続】【経験】【完了】) を伝えるメッセージに応じて使い分けるといように、総合的に用いながら言語活動に取り組むことはあまりない。そのため、「現在完了形」を実践的に使用する運用能力よりも、3 つの用法を区別するための知識に重きが置かれている場合が多い。

一方、TSLT シラバスにおいて生徒は、表 3 の Step 1~3 までの指導の後に Step 4 としてタスク活動に取り組むことになる。生徒は、活動の中で課題を達成するために伝えるメッセージを、より「正確」かつ「適切」なものにするために、「現在完了形」の 3 つの用法を選択しながら使うことが要求される。さらに Step 5 として、生徒はタスク活動中の産出 (Production)、つまり活動の目標を達成するために相手とやり取りしたメッセージの内容が「正

■ 表 2：従来の指導手順

手順	PPP	指導内容	文法構造
Step 1	Presentation ①	文法指導 ・文法形式の特徴や意味について説明する。	現在完了形 (継続)
Step 2	Practice ①	口頭練習・問題演習 ・新出表現(現在完了形)の音や文字に慣れる。	
Step 3	Production ①	新出表現を使ったコミュニケーション活動 ・新出表現(現在完了形)を使ってメッセージを伝えることに慣れる。	

■ 表 3：TSLT シラバスにおける指導手順

手順	PPP	指導内容	文法構造
Step 1	Presentation ①	文法指導① ・新出表現(現在完了形)を「使用(Use)」の場面をイメージさせながら説明する。	過去形, 現在完了形 (継続・経験・完了)
Step 2	Practice ①	口頭練習・問題演習 ・新出表現(現在完了形)の音や文字に慣れる。	
Step 3	Production ①	新出表現を使ったコミュニケーション活動 ・新出表現(現在完了形)を使ってメッセージを伝えることに慣れる。	
Step 4	Production ②	タスク活動 ・「使用(Use)」の場面を意識しながら、メッセージを伝え合い、タスクを完了する。	
Step 5	Presentation ②	文法指導② ・タスク活動中の発話内容を基に、指導者が、より「正確」かつ「適切」な「使用(Use)」について説明し、気づかせる。	

確」かつ「適切」なものであったかについてフィードバックとしての文法指導(表3中「文法指導②」)を教師から受け、また、他の生徒の活動中の対話を聞いたり、読んだりし、自身の発話内容と比較することになる。こういった手順を通して、3つの用法を区別しながら使う、実践的な運用能力を育成する。

2.4 「気づき」を生かしたフィードバック

タスク活動において生徒は自分の意図することを的確に伝えるために、状況や場面に適した文法構造を選択し使用しなければならない。しかし、生徒は必ずしも正確で適切な表現を選択しているとは限らず、間違いなどに気づかせ、修正させるフィードバックの機会が実に重要で、これが教師の果たす重要な役割である。またフィードバックを効果的なものにするため、生徒自身の「気づき」を促す場面を設定することが重要であると考えられる。

3 研究の内容

3.1 タスクの内容

本実践で生徒が取り組むタスク活動は、すべて達成すべき課題が対話相手との情報交換を通して「行き先(目的地)を決めること」となっている(意思決定タスク)。また2.2で述べたように、活動シートには課題達成に向けて段階を追った指示が設けられ、使用すべき文法構造が暗示的に指定されており(Focused Task)、課題を達成するためにやり取りするメッセージが「正確」かつ「適切」なものとなることが期待される。

年間4回実施するタスク活動の実施時期、テーマとタスクの内容、メッセージの中心となる文法構造は表4に示すとおりである。

活動中にやり取りするメッセージの中心となる文法構造を統一し、タスクの内容を「タスク活動①」と「④」、「タスク活動②」と「③」でほぼ同じものにした(表4中「Similar タスク」)のは、生徒自身の気づきや学びを次回につなぐ場面を設定するため、自身の成長を実感し、中学校段階の学習者が学

■表 4：タスク活動の内容とタスクを達成するために必要な文法構造

実施時期	テーマとタスクの内容	文法構造
7月初旬 ①	「国内旅行へ出かけよう！」 1. 昼食をとったかどうかの確認 2. 旅行で出かけたい場所とその理由についての情報交換 3. 過去に行った経験のある場所についての情報交換 4. どの場所へ出かけるかを相談して決める	過去形・現在完了形(継続・経験・完了)を中心としながら、現在形、現在進行形、不定詞(want to ~) など
10月初旬 ②	「愛知の名所を案内しよう！」 1. 宿題が終わったかどうかの確認 2. A: 愛知の名所について自分の経験を含めて伝える B: やってみたいと思っていることを自分の経験を含めて伝える 3. どの名所に行くかを相談して決める ※ A, B はシートの別を示す。	過去形・現在完了形(継続・経験・完了)を中心としながら、現在形、受動態、不定詞(want to ~) など
12月初旬 ③	「愛知の名所を案内しよう！ Part 2」 1. 宿題が終わったかどうかの確認 2. A: 愛知の名所について自分の経験を含めて伝える B: やってみたいと思っていることを自分の経験を含めて伝える 3. どの名所に行くかを相談して決める ※ A, B はシートの別を示す。	過去形・現在完了形(継続・経験・完了)を中心としながら、現在形、受動態、不定詞(want to ~) など
2月上旬 ④	「卒業旅行へ出かけよう！」 1. 昼食をとったかどうかの確認 2. 旅行で出かけたい場所とその理由についての情報交換 3. 過去に行った経験のある場所についての情報交換 4. どの場所へ出かけるかを相談して決める	過去形・現在完了形(継続・経験・完了)を中心としながら、現在形、現在進行形、不定詞(want to ~) など

(注) 「Similar タスク」中に設定された伝え合うメッセージの分量：①<④、②<③

習を進める上で不可欠な内発的動機づけとするためである。

具体的には、生徒がタスク活動①での気づきや学びを内容の異なる②で活用し、②での気づきや学びを内容がほぼ同じ③で活用し、最後に①とほぼ同じ内容の④で、①からの成長を実感することを期待した。

3.2 参加者

本研究では、名古屋市の公立中学校では中規模校に当たる本校3年生212名のうち筆者が指導を担当する140名を対象にした。タスク活動に取り組むのは中学校3年間で本実践が初めてとなる。生徒は1年生の頃より、筆者による「聞くこと」、「話すこと」

を中心としたPPP (Presentation - Practice - Production) の指導手順を基礎とした指導を受けてきている。筆者はこれまでPPPの指導を基礎としながら、活動に取り組む生徒間でのメッセージの授受に重きを置いた指導を行ってきた。特にProductionの段階では、1年生時に自身の趣味・趣向や習慣などを他者に伝える「自己紹介活動」に、2年生時には、予定していること (be going to ~) や過去にしたことなどを中心に即興に近い場面において、ペアで自由にメッセージのやり取りをする活動「スモールトーク」にそれぞれ1年間継続的に取り組ませてきている。これらの活動を通しての経験が、本研究で取り組むタスク活動において、メッセージのやり取りをスムーズなものにする上での助けと

Similar タスク

Similar タスク

なっていると考える。

3.3 活動形態

生徒がタスク活動に取り組む際の活動形態は以下のとおりである。

タスク活動① 固定ペア I (生徒同士)	} 同一
タスク活動② 固定ペア II (生徒同士)	
タスク活動③ 固定ペア II (生徒同士)	
タスク活動④ 教師(筆者) — 生徒 1 名	

「固定ペア」は、人間関係と個々の習熟度に配慮した生徒同士の相互選択式としている。生徒はリーダーとパートナーに役割が分担され、リーダーがイニシアチブを取りながら活動を進めていくことになる。タスク活動②と③の活動形態を同一のペアとしているのは、「Similar タスク」での活動中の互いの発話の質の向上(変容)を詳細に把握できるようにするためである。また、以下の理由からタスク活動④の活動形態は、教師がすべての生徒と個別に取り組むこととした。

- 各ペアの「活動の進行の様子」や「リーダーからの支援の様子」がリーダーの習熟度やパートナーを支援する姿勢によって左右されるため。
- 個々の生徒の課題を活動直後にフィードバックし、「正確かつ適切な使用」への気づきをより効果的に促すため。

3.4 振り返り・評価

タスク活動後に生徒は〈振り返りシート〉(資料2)に取り組むことになる。ICレコーダに録音した自身の発話記録を聞き返ししながら、表5のような自己評価項目について振り返り、発話内容を書き出し、正確に伝えられた表現と伝えられなかった表現を確認させた。

記入した〈振り返りシート〉は回収し、教師がICレコーダに記録された音声を聞き、フィードバックとしての文法指導の内容を精査するための参考とした。

〈振り返りシート〉は、教師が個々の生徒の、(1)成果(できている点、成長した点)、(2)課題(より正確かつ適切にメッセージのやり取りをするために努力を要する点)、(3)評価(評価項目それぞれについて3段

■表5：タスク活動② 自己評価項目

評価項目	具体的な評価ポイント	○・×
Completion (タスクの完了)	○案内する(される)名所を決定できた。	
Message (伝えられたか)	○各名所に行った経験と名所の情報を説明することができた。(Sheet A)	
	○日本でしたいことと、その理由を伝えることができた。(Sheet B)	
Structures (文の意味、用途を考慮して使い分けられたか)	○ある過去の事実を述べるときに、過去形を使用することができた。	
	○自分の経験を述べるときに、現在完了形を使用することができた。	
	○過去形や現在完了形を使って、自分の経験などを伝えることができた。	

階：評価基準は表6参照)を載せた〈評価シート(図1)〉とともに返却した。どちらもファイルに綴じさせ、次のタスク活動前に参照できるようにした。

3.5 フィードバックとしての文法指導

タスク活動後に行ったフィードバックとしての文法指導は活動の約1か月後に行った。これは、全生徒の発話分析と評価シート作成、文法指導の内容の精査に時間を要するからである。

文法指導では、タスク活動中のメッセージの中に共通して見られる誤り、より「正確」かつ「適切」にメッセージのやり取りをするためのアドバイスを「使用(Use)」の場面を描いた図などを用いながらスライド(資料3)を使用して説明した。また必要に応じて、説明後に同じタスク活動に取り組ませることで、理解を促そうと考えた。

3.6 気づきの場面の設定

TSLT シラバスにおいては、タスク活動の活動後に行う表7のようなフィードバックの中に「気づき」の場面を取り入れている。「気づき」の場面は大きく3つある。

まず、表7中(1)〈振り返りシート〉への記入の場面では、活動前に説明された、「伝えるメッセージの正確さ」を意識させるような自己評価項目を基に

■表 6：評価判定基準

(1) タスクの達成	A	英語のみを使用して目標を達成した。
	B	日本語を補助的に使いながら英語を使用して達成した。
	C	主に日本語を使用して達成した。または、日本語使用の有無にかかわらず達成できなかった。
(2) メッセージの伝達	A	相手に正確に伝わる英文の数が全発話文数の70%以上であった。
	B	相手に正確に伝わる英文の数が全発話文数の50～69%であった。
	C	相手に正確に伝わる英文の数が全発話文数の50%未満であった。
(3)-1 過去形の使用	A	過去形を使って伝えるべき全発話文数の中で、正確な過去形の使用が70%以上であった。
	B	過去形を使って伝えるべき全発話文数の中で、正確な過去形の使用が50～69%であった。
	C	過去形を使って伝えるべき全発話文数の中で、正確な過去形の使用が50%未満であった。
(3)-2 現在完了形の使用	A	現在完了形を使って伝えるべき全発話文数の中で、正確な現在完了形の使用が70%以上であった。
	B	現在完了形を使って伝えるべき全発話文数の中で、正確な現在完了形の使用が50～69%であった。
	C	現在完了形を使って伝えるべき全発話文数の中で、正確な現在完了形の使用が50%未満であった。
(4) 過去形と現在完了形の使い分け	A	(3)-1, (3)-2の両方が“A”であり、正確かつ適切に使い分けができています。
	B	(3)-1, (3)-2の一方が“A”でもう一方が“B”であり、ある程度正確かつ適切に使い分けができています。
	C	(3)-1, (3)-2の一方(または両方)で“C”であった。正確かつ適切な使い分けができていない。

(注) 表中(2)(3)の割合は、例えば全発話文数(活動中に課題を達成するために、各文法構造を用いて伝えることが期待されるメッセージの総数)が5であり、実際に生徒が正確かつ適切に伝えたメッセージが3文であれば、60%となる。

表中(2)(3)の「A」の基準を70%以上、「B」の基準を50～69%としたのは、筆者自身の指導経験に基づいたものであり、生徒が理解しやすいように、他の Production 活動に取り組みさせる際に設けている基準と同様のものとするためである。

クラス	氏名		成果			課題			
△△	○○	○○	1) What were you doing? 言えた。 相づちを使いながら会話らしさを意識した。 2) 自分の経験や名所の情報を現在完了と過去を使い分けながら説明することができた。さらに正確かつスムーズになるといい。			2) I have ever been to ~ → I have been to ~. I am big fan of Dragons for a long time. → I have been a big fan of Dragons for a long time. I ski for three years. = I have skied for three years. I have gone there with my sister every Sunday. → I go there ~. 現在の習慣は現在形、一定期間の継続は現在完了形			
TA② タスクの完了	TA③ タスクの完了	TA② 理由を伝える	TA③ 理由を伝える	TA② 過去形の使用	TA③ 過去形の使用	TA② 現在完了形の使用	TA③ 現在完了形の使用	TA② 使い分け	TA③ 使い分け
B	A	B	A	B	B	B	A	B	B

▶ 図 1：〈評価シート〉の例

■表 7：タスク活動後のフィードバック

実施のタイミング	フィードバックの導入手順と内容
活動実施 同日・直後	(1)〈振り返りシート〉への記入 ・発話記録の書き起こし ・活動目標の達成度の振り返り ・言いたかったが言えなかった表現の書き出し ・活動を振り返っての感想 「気づき」の場面
活動実施の 約 1 か月後	(2)〈気づけるかな？ シート〉への取り組み ・活動中の発話に共通して見られた誤りを含む会話例を読み、その誤りを見分け訂正する。 「気づき」の場面
	(3)教師がスライドを使って学習者全体へ文法指導など ・活動中の発話に共通して見られた誤り ・相づちや聞き返しなどの会話をスムーズにするための工夫
	(4)生徒個々への評価シートを通じた目標達成に向けたアドバイス ・発話記録の内容から教師が精査した個々の課題
	(5)〈モデルダイアログ〉を読む ・活動中に実際に言った表現とモデルダイアログで使われている正確な表現を比較し、その違いに気づく。 「気づき」の場面

IC レコーダで記録した活動中の発話音声聞きながら、自身の言語運用の不十分さに「気づく」ことになる。

次は、表 7 中(2)〈気づけるかな？ シート〉(資料 4)への取り組みの場面である。生徒は、シート(4.2 参照)に載っている活動中にやり取りされたメッセージの数例を読み、そのメッセージが「正確」かつ「適切」であるかを見分け、その違いに気づくことになる。正確に伝えられていた表現、伝えられなかった表現がどのようなものであるかに「気づく」ことになる。

次に、(5)〈モデルダイアログ〉(資料 5)を読む場面では、教師からの「正確」かつ「適切」に伝えるための方法についての助言を参考にしながら「実際に表現できたこと」と正確な表現との差に「気づく」ことになる。

また、(3)(4)については、生徒が自発的に「気づく」場面としてではなく、教師からの指導・助言という形式をとっており、(1)(2)(5)での「気づき」を補う働きを期待した。

3.7 確認テスト

生徒が取り組む確認テスト(資料 6)では、コンテキスト(2人の会話)の中でやり取りされるメッセージの一部が空所となっている。その空所を補充するのに使われるメッセージのうち最もふさわしいもの(場面に合っており、発表者の意図が正確に伝わるもの)を【① 現在形、② 過去形、③ 現在完了

形】の3種類から選ぶことが期待される。問題は【現在形】、【過去形】、【現在完了・継続】、【現在完了・経験】、【現在完了・完了】の5種類、それぞれ3問ずつで計15問から構成される。年間2回実施する確認テストの2回目では、1回目と出題形式は変えず、類似したコンテキストの中で2人の人物のやり取りするメッセージの内容を変えたものを出题し、変容を追うことにした。テストの性質上、問題用紙は回収し、採点後の解説は行わなかった。

4 活動の様子

4.1 生徒の対話とその特徴

図 2 は実際にタスク活動②に取り組んだ生徒の対話の一部である。図中の Mika 役の生徒は、全体的に何とか伝わる英語でメッセージを伝えることができていたが、「過去形」で伝えるべき内容を「現在完了形」で伝えてしまっている(図 2 中下線部)。この種の誤りは、タスク活動②において、多くの生徒の発話に見られた。しかし、活動後のフィードバックを経て取り組んだタスク活動③において、図 3 のように発話の途中で誤りに気づいて言い直すなど、徐々に使い分けることができるようになってきている様子が見られた。

タスク活動②「愛知の名所を案内しよう！」

1 ミカがロッキーに何をしていたかたずねる場面

Mika: Hello, this is Mika. What were you doing?

Rocky: I finished Japanese homework.

2 ミカがロッキーに愛知の名所について質問(説明)する場面

Mika: I will tell you sightseeing spot in Aichi.

Have you ever been to Nagoya Castle?

Rocky: Yes, I have. I have been to there with my family last week.

Mika: OK, I have been there twice.

Nagoya Castle is famous for shachihoko.

Have you ever been to Korankei?

Rocky: No, I haven't.

Mika: OK, I have been there once. We can

fishing there.

The view from the bridge is beautiful.

Have you ever been to Minamichita?

Rocky: Yes, I have. I have been there twice.

Mika: Really? I have been to there last month.

Have you ever been to Nagoya Dome?

Rocky: No, I haven't.

Mika: OK, I have been to there last week.

I have played baseball for five years.

Nagoya Dome was built ten years ago.

Have you ever been to Mt. Chausu?

Rocky: No, I haven't.

Mika: I have been to there last winter.

I have skied for three years.

Have you ever been to Higashiyama zoo?

Rocky: Yes, I have. I go there every Sunday.

Mika: Me, too. I go there every Sunday.

Koala is very popular.

(注) 下線部は「過去形」と「現在完了形」の使い分けに関する誤り。

▶ 図 2: 「タスク活動」に取り組んだ生徒の対話を記述したもの

2 ミカがロッキーに愛知の名所について質問(説明)する場面

(中略)

Mika: Have you ever been to Minamichita?

Rocky: Yes, I have. I have been there twice.

Mika: I have been there lastあっ！ I went there last month.

▶ 図 3: 誤りに気づいて言い直している様子

また、タスク活動②から③への変容として顕著だったのが、必要に応じて「相づち」や「気持ちや考え」を入れながら、会話を円滑に進める工夫をす

る生徒が多く見られたことである。

4.2 〈気づけるかな？ シート〉への記述内容

生徒は、活動中の自身の発話とシートに記載された英文を比較しながら、「正確」かつ「適切」な「使用(Use)」を意識しながら取り組み、誤りを見分け、図4のように訂正していった。〈気づけるかな？ シート〉はタスク活動①～③のフィードバックの直前に実施した。回を追うごとに誤りに気づく数が増えていった。

2 <ミカがロッキーに愛知の名所について質問(説明)する場面>

ミ: Have you ever been to Nagoya castle?

ロ: Yes, I have. I ~~have been~~ there with my family last week.ミ: I see, I have been there ^{twice} twice. It's famous for shachihoko.

Have you ever been to Korankei?

ロ: No, I haven't.

ミ: Oh, really? I have been there once. We can go fishing there.

The view from the bridge is beautiful. Have you ever been to Minamichita?

ロ: Yes, I ~~have been~~ there last month.ミ: Have you ever ^{been} been to Higashiyama zoo?ロ: Yes, I ~~have been~~ there every Sunday.ミ: Me, too. ^{too}

▶ 図 4: 〈気づけるかな？ シート〉への記入の様子

5 結果

5.1 確認テスト①②の評価結果

表8は確認テスト①②の結果を比較したものである。生徒の誤答を分析してみると、タスク活動①のフィードバック後に実施した確認テスト①では、表8中の問題番号⑫、⑧に見られるように、「現在完了形」の【継続】と【経験】のそれぞれを「過去形」と混同し、「現在完了形」の【完了】を「現在形」と混同している生徒が目立った。また、タスク活動③のフィードバック後に実施した確認テスト②では、「現在完了形」の【完了】を「現在形」と混同する生徒が27%見られた。

5.2 タスク活動①～④の評価結果

表9は4回のタスク活動の評価結果である。タスク活動②と③との間で、(3)-1「過去形の使用」に10%の上昇が見られるが、その他の項目には目立った上昇は見られなかった。タスク活動①と④との間では、(3)-1で20%、(3)-2「現在完了形の使用」で13%、(4)「過去形と現在完了形の使い分け」で14%の上昇が見られた。一方で、タスク活動④の(4)が

■ 表 8：確認テスト①②の結果 (n = 140)

問題の正答となる文法構造	確認テスト①				確認テスト②			
	問題番号	選んだ文法構造 (誤答)			問題番号	選んだ文法構造 (誤答)		
現在		過去	現在完了	現在		過去	現在完了	
現在形	⑥	81	11	8	⑥	79	11	10
	⑬	85	5	10	⑬	75	7	18
	⑮	73	7	20	⑮	77	9	14
過去形	②	6	89	5	②	6	88	6
	⑩	11	83	6	⑫	2	90	8
	⑫	5	60	35	⑩	6	89	5
現在完了 (継続)	③	4	8	88	③	17	6	77
	⑧	16	21	63	⑧	9	9	82
	⑨	9	9	82	⑨	6	9	85
現在完了 (経験)	①	10	23	67	①	2	4	94
	④	1	14	85	④	3	11	86
	⑭	19	14	67	⑭	8	5	87
現在完了 (完了)	⑤	49	8	43	⑪	27	10	63
	⑦	10	8	82	⑦	10	10	80
	⑪	3	8	89	⑤	4	5	91

(注) 同じ文法構造の類似問題を横並びに記してある。例えば確認テスト①の現在形⑥とテスト②の現在形⑥は類似問題である。

太字は正答が70%に満たなかったもの、斜体は目立った誤答を示す。

■ 表 9：タスク活動①～④の評価結果 (%) (n = 140)

評価 (分析) 項目	評価	タスク活動② 10月実施		タスク活動③ 12月実施		タスク活動① 7月実施		タスク活動④ 2月実施	
		結果	AB計	結果	AB計	結果	AB計	結果	AB計
(1) タスクの達成	A	88	100	88	96	77	94	92	99
	B	12		8		17		7	
	C	0		4		6		1	
(2) メッセージの伝達	A	42	92	45	88	63	86	83	90
	B	50		43		23		7	
	C	8		12		14		10	
(3)-1 過去形の使用	A	46	64	47	74	48	57	73	77
	B	18		27		9		4	
	C	36		26		43		23	
(3)-2 現在完了形の使用	A	45	69	51	76	38	64	69	77
	B	24		25		26		8	
	C	31		24		36		23	
(4) 過去形と現在完了形の使い分け	A	35	55	42	59	25	47	54	61
	B	20		17		22		7	
	C	45		41		53		39	

(注) 表中の太字の数字は前回の Similar タスクから10%以上の上昇が見られたものを示す。

「C」である生徒が39%見られた。またその生徒の中には、(3)-1, 2の一方が「A」である者や、確認テスト②で正解している文法構造について誤った使用をしている者がいた。

6 考察

確認テスト①から②へ、またタスク活動①から④へ上昇が見られたことから、タスク活動を中心とした TSLT シラバスに一定の有効性があると考えられる。しかし、生徒の各文法構造の使用やその用法の理解の様子は実にさまざまであり、より実践的な使用につなげるために、今回実施したタスク活動後のフィードバックの内容や手法を振り返り、工夫する必要があると考える。

実践を終え、3月に「タスク活動に関するアンケート」を実施した。表10はその結果である。

7割近くの生徒がタスク活動に難しさを感じながらも、99%の生徒が話す力を伸ばすのに役立つと答えている。筆者がこれまで授業に取り入れた Production 活動（「自己紹介活動」や「スモールトーク」）では、このような反応を得ることはできなかった。また、「難しい」と答えた生徒の多くが「対話の中で即座にメッセージを伝えるのがとても難しい」、「伝えたいことがすぐに頭に浮かばない」といった感想を残している。これは実際のコミュニケーション

の場面でも同様に感じることであり、タスク活動が英語運用能力を向上させる「実践的なコミュニケーション活動」であることを裏づけている。

また、ほとんどすべての生徒がタスク活動に楽しく取り組むことができたと答えている。タスク活動に生徒が意欲的に取り組む上で欠かせないのが興味深さ (of interest) である。中学校で、TSLT シラバスを取り入れようとした場合、その中心となるタスク活動が興味深いものになっているかが、生徒の成長の度合いを決定づけると言っても過言ではない。

また、興味深いタスクの内容やそれに伴う活動シートの工夫に加え、教師から（ときには生徒相互）的確かかつ適切なフィードバックが継続的に意欲を持って取り組ませるためには不可欠である。なぜなら生徒は、活動後の自らの気づきに加えて教師からの指導を糧として成長し、教師やパートナーから成長を認められることで、次も努力しようとするからである。

最後に、実に9割以上の生徒が、固定ペアで取り組むことを支持し、そのほとんどが理由として「相手の成長がわかる」、「困っているとうまく助けてくれる」と言っている。タスク活動を中学校段階の指導において有効なものにするために、教師による個に応じた支援に加えて、生徒同士の支援、気づきの共有が不可欠であると考えられる。

本研究で明らかになった、TSLT シラバスを実践する上で大切な要素は表11のとおりである。

■表10：「タスク活動に関するアンケート」結果 (%) (n = 140)

タスク活動は英語を話す力を伸ばすのに役立ったと思いますか	役立った	どちらかといえば役立った	どちらかといえば役立たなかった	役立たなかった
	91	8	1	0
タスク活動は簡単でしたか、それとも難しかったですか	簡単だった	どちらかといえば簡単だった	どちらかといえば難しかった	難しかった
	7	25	43	25
タスク活動に楽しく取り組むことができましたか	楽しく取り組めた	どちらかといえば楽しく取り組めた	どちらかといえば楽しく取り組めなかった	楽しく取り組めなかった
	72	25	2	1
タスク活動に取り組む際のペアは固定ペアでよかったですか	固定ペアでよかった	どちらかといえば固定ペアでよかった	どちらかといえば固定ペアでない方がよかった	固定ペアでない方がよかった
	72	20	6	2

■表11：TSLT シラバスと「タスク活動」を有効にする要素

TSLT シラバス
1. 1年間に設定するタスク活動の内容と回数 ・成長を実感させる「Similar タスク」の設定 2. タスク活動前後の文法指導の内容と手法 ・文法指導①→タスク活動→文法指導② 3. 学習意欲を持続させる指導手順 ・「① 挑戦→② 振り返り→③ 再挑戦」→達成感・意欲
タスク活動
1. やり取りするメッセージの中心となる文法構造の精選 ※本研究(対象：3年生)では、「過去形」と「現在完了形」。 2. Similar タスクに取り組むペアを固定 3. やり取りするメッセージの内容やタスクの難易度の決定 ※学習者の実態に応じて決定し、タスク活動への取り組みの様子をもとに調整する必要がある。

7 まとめ(今後に向けて)

平成24年度より、中学校において新学習指導要領

参考文献(*は引用文献)

- Ellis, R. (2003). *Task-based Language Learning and Teaching*. Oxford: University Press.
- * Ellis, R. (2009). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford: Oxford University Press.
- * Imai, N. (2003). Practical Communicative Competence Through Grammar Instruction with Particular Reference to the Present Perfect: Utilization of the Tosa Dialect and effective Task Activities. An MA Thesis submitted to Hyogo University of Teacher Education.
- 今井典子. (2005). 「中学校における正確さと流暢さを同時に高める言語活動の開発とその評価のあり方」. *STEP BULLETIN*, vol. 17, 133-151.
- Larsen-Freeman, D. (2003). *Teaching Language: From Grammar to Grammaticing*. Boston, MA: Heinle, Cengage Learning.
- 中嶋洋一. (1997). 『英語のディベートの授業30の技—生徒が熱狂・教室が騒然』. 東京：明治図書出版.
- 杉浦理恵. (2008) 『高等専門学校生の英語の時制と相の理解に関する一考察』. 『茨城工業高等専門学校研究集報』(第43号). pp.13-22.
- * Swain, M. (1985). Communicative competence: some roles of comprehensible input and comprehensible

が施行され、授業時数が週3時間から4時間に増加した。小学校で培った「コミュニケーション能力の素地」を基礎とし、増加した1時間を有意義に活用することが「実践的な」コミュニケーション能力を育成する上で大切であると考え。これまで、多くの中学校で取り入れられ磨き上げられたPPPの指導は、学習者が小学校で慣れ親しんだ英語を「言える」、「書ける」という段階へ押し上げるだけの力を持っている。そうして身につけた英語を実践的なものにする1つの有効な方法として、TSLT シラバスの活用をこの場を借りて提案したい。

謝辞

このような機会を与えてくださいました(財)日本英語検定協会の関係者の皆様、選考委員の先生方に厚くお礼を申し上げます。とりわけ、吉田研作先生には有益なご助言を賜りました。

また、本研究の実践にあたりまして、東京外国語大学大学院教授の高島英幸先生から、研究期間中、丁寧なご指導とご助言をいただきました。ひとかたならぬご支援に対しまして、心よりお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

- output in its development. In S. Gass & C. Maden (Eds.), *Input in second language acquisition*. Rowley, Mass.: Newbury House.
- * Swain, M. (2005). The output hypothesis: Theory and research. In E. Hinkel (Ed.), *Handbook of research in second language teaching and learning* (pp.471-483). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
- 高島英幸(編著).(1995). 『コミュニケーションにつながる文法指導』. 東京：大修館書店.
- * 高島英幸(編著).(2000). 『実践的コミュニケーション能力のための英語のタスク活動と文法指導』. 東京：大修館書店.
- * 高島英幸(編著).(2005). 『文法項目別英語のタスク活動とタスク—34の実践と評価』. 東京：大修館書店.
- * 高島英幸.(2010). 「日本の英語教育を決定づける『タスク』—練習からタスクへの言語活動の充実—」. 『大学院 GP 紀要』.
- 高島英幸(編著).(2011). 『英文法導入のための「フォーカス・オン・フォーム」アプローチ』. 東京：大修館書店.
- VanPatten, B. (2002). *From Input to Output: A Teacher's Guide to Second Language Acquisition*. The McGraw-Hill Companies.

資料

資料1：タスク活動②「愛知の名所を案内しよう！」

愛知の名所を案内しよう！ タスク活動②



Sheet B

あなたは、カナダ出身のロッキー・スミスです。今度クラスメートのミカが、愛知県の観光スポットを案内してくれたいになりました。どんな所に行きたいのかを言って、ミカと電話で相談して決めましょう。(口印のついていない番号は、あなたから始めます。)

1 3時間かかって、国語の宿題が終わったところに、ミカから電話がかかってきます。ミカの質問に答えましょう。

2 ミカの質問に答えましょう。できるだけ詳しく伝えましょう。ミカに聞いた情報があれば、メモしておきましょう。

◆ あなたが行ったことがある愛知県の観光スポット

南知多	名古屋城	東山動物園
2回行ったことがある。	先週家族で行った	毎週日曜日に行っている
		

<メモ>

3 ミカの質問が終わったら、あなたから、観光地であなたがしてみたいことを、ミカさんにできるだけ詳しく伝えてみましょう。ただし、そんなにたくさんはできないので、3つ選んで伝えましょう。

◆ あなたがしてみたいこと

- ・ 紅葉が見たい (紅葉は一度も見たことがない)
- ・ 日本の歴史に興味がある。(日本の歴史を勉強して3年)
- ・ スキー (スキー歴5年、日本でもやってみよう)
- ・ コアラの写真を撮りたい。(先週デジタルカメラを買った)
- ・ 球場で野球が観たい (以前1度カナダで観たことがある。)
- ・ 海で日の出が見たい (なかなか朝早く起きられないので、見たことがない)

4 観光スポットのどこへ行くのかミカと相談して決めましょう。

どこに行くことになりましたか? → ()

Class No Name _____

愛知の名所を案内しよう！ タスク活動②




Sheet A

あなたは、中学校3年生のミカです。クラスメートでカナダ出身の留学生ロッキー・スミスを今度、愛知県の観光スポットに案内してあげることになりました。どこがいいのかをスミスさんと電話で相談して決めましょう。(口印のついていない番号は、あなたから始めます。)

1 ロッキーに電話をしましょう。何をしていたのかを詳しく聞いてみましょう。

2 今度、愛知県の観光スポットを案内してあげてほしいことを伝えましょう。愛知県に来てから、どんな場所に行ったことがあるのか聞いてみましょう。(メモを取りましょう) 行ったことがない場所については、どんな所か教えてあげましょう。

★ 虎補の観光スポット

名古屋城	香嵐渓	南知多
2回行ったことがある。しゃほこで有名	1回行ったことがある。釣りができる。橋からの眺めがすばらしい。	先月行った。海がきれい。ビーチランドでイルカショーが見られる。
		

ナゴヤドーム (Yes / No)
先週行った。野球を5年やっていて、10年前にできた。

茶臼山 (Yes / No)
去年の冬に行った。スキーは3年やっている

東山動物園 (Yes / No)
毎週日曜日に行っている。コアラが人気

3 ロッキーのやってみようことをメモを取りながら聞いてみましょう。

<メモ>

4 どこに案内するか、ロッキーと相談して決めましょう。どこに行くことになりましたか。

()

Class No Name _____

資料 2 : 振り返りシート

振り返りシート タスク活動②
愛知の名所を案内しよう！

振り返りⅠ 目標が達成できたかチェックしよう

評価項目	チェック事項	○・×
Completion (タスクの完了)	<input type="radio"/> 案内する(される)名所を決定できた。	
Message (伝えられたか)	<input type="radio"/> 各名所に行った経験と名所の情報を説明することができた (Sheet A: ミカ) <input type="radio"/> 日本でしたいことと、その理由を伝えることができた。 (Sheet B: ロッキー)	
Structures (文の意味、用途を覚えて使い分けられたか)	<input type="radio"/> ある過去の事実を述べるときに、過去形を使用することができた。 <input type="radio"/> 自分の経験を述べるときに、現在完了形を使用することができた。 <input type="radio"/> 過去形や現在完了形を使って、自分の経験などを伝えることができた。	

振り返りⅡ 英語力がどれだけ成長するか(したか)。

①モジュール英文の数(ロッキー 29文、ミカ 36文)

②自分が話した英文の数(文)

③モジュール英文と比べてあなたの英文の質(以下教師が記入)

感想(成長した点、と思うこと、活動中、面白いなと感じたこと、など)

Class No Name

振り返りⅢ① 自分が話した英語を10文書を取ろう。 **ミカ or ロッキー**
*言葉につまんで、同じ言葉を繰り返したものは書かなくてもよい。 ↑役に○
*自分が話した英文のみ書けよ。英文の数と質に注目しよう。
*活動シートの番号を()に入れない。

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

振り返りⅢ② 今日言いたかったけれど、言えなかった表現を日本語で書いてみよう。

①

.....

②

.....

③

.....

④

.....

⑤

.....

⑥

.....

⑦

.....

⑧

.....

⑨

.....

⑩

.....

資料 3 : フィードバックとしての文法指導で使用したスライド (抜粋)

<フィードバックとしての文法指導で使用したスライド (抜粋) ②>
(Imai 2003, pp. 104)

現在完了形
話し手の気持ち

その日の夜

過去形
話し手の気持ち

<フィードバックとしての文法指導で使用したスライド (抜粋) ①>
(Takashima 2000, pp. 136)

過去形

過去 現在

現在完了形

過去 現在

過去形

過去 現在

現在完了形

過去 現在

資料 4 : 気づけるかな? シート

☆ 気づけるかな? タスク活動② 「愛知の名所を案内しよう!」

1 ①()は、ミカが困って何も言えませんでした(おかしな答えが返ってきたから)。ロッキーは何と答へようか迷ったのでしよう。右口の中に書きなさい。

2, 3 「こられた方がもっと正確に答える」という所を探して、赤ペンで訂正しなさい。ポイントは過去形と現在完了の使い分けです。

1 <電話で、ミカがロッキーに何をしていたかをたずねる場面>

M: What were you doing?
 R: I did Japanese homework.
 M: ①()

2 <ミカがロッキーに愛知の名所について質問(説明)する場面>

M: Have you ever been to Nagoya castle?
 R: Yes, I have. I have been there with my family last week.
 M: I see, I have been there twice. It's famous for *shachihoko*.
 Have you ever been to Korankei?
 R: No, I haven't.
 M: Oh, really? I have been there once. We can go fishing there.
 The view from the bridge is beautiful. Have you ever been to Minamichita?
 R: Yes, I have been there twice.
 M: I have been there last month. Have you ever been to Higashiyama zoo?
 R: Yes, I have been there every Sunday.
 M: Me, too.

◆ ロッキーが行ったことがある場所

岡崎多	名古屋城	東山動物園
☆2回行ったことがある。	☆先週家族と行った。	☆毎週日曜日に行っている。

3 <ロッキーがやりたいこととその理由をミカに説明する場面>

R: I want to see koyo. I didn't see koyo.
 M: OK.
 R: I am interested in Japanese history.
 I studied about Japanese history for three years.
 M: I see.
 R: I want to watch a baseball game at the stadium.
 I have watched it once in Canada.

◆ ロッキーがやりたいこととその理由

- ・ 紅葉が見たい(紅葉は一度も見ることがない)
- ・ 日本の歴史に興味がある。(日本の歴史を勉強して3年)
- ・ スキー(スキー歴5年。日本でもやってみたい。)
- ・ コアラの写真を撮りたい。(先週デジカメを買った)
- ・ 球場で野球を観たい(以前1度カナダで観たことがある。)
- ・ 海で日の出が見たい(なかなか朝早く起きられないので、見ることがない)

Class No Name

資料 5 : タスク活動② モデルダイアログ

愛知の名所を案内しよう!
 タスク活動②

Model Dialogue

1 ミカがロッキーに何をやってたか(特に宿題が終わったか)を確認する場面

M: Hello. This is Mika. How are you?
 R: I'm fine. What were you doing?
 M: I have just finished Japanese homework. It took three hours.
 Have you finished it yet?

2 ミカがロッキーに愛知の名所について質問(説明)する場面

M: I'll show you Aichi's tourist attractions(愛知の観光スポット).
 Have you ever been to Nagoya castle?
 R: Yes, I have. I went there with my family last week.
 M: I see, I have been there twice. It is famous for golden *Shachihoko*.
 R: Yeah, I saw it.
 M: Have you ever been to Korankei?
 R: No, I haven't.
 M: I have been there once. You can enjoy fishing there, and the view from the bridge is wonderful.
 R: Sounds interesting.
 M: Have you ever been to Minamichita?
 R: Yes, I have. I have been there twice.
 M: Oh, really? I went there last month. It has a beautiful sea, and you can watch the dolphin show at the Beachland.
 R: I have never seen it.
 M: How about Nagoya Dome? Have you ever been there?
 R: No, I haven't. Have you?
 M: Yeah, I went there last week. I have played baseball for five years.
 R: Sounds great.
 M: Have you ever been to Mt. Chausu?
 R: No, I've never been there.
 M: I went there last winter. I have skied for three years.
 R: I like skiing, too.
 M: How about Higashiyama zoo? Have you ever been there?
 R: Yes. I go there every Sunday.
 M: Good. Did you see Koalas? They are very popular there.

3 ロッキーがしたいこととその理由を説明する場面(6つとも載せましたが、みんなが選んだのは3つのみ)

R: Well, I want to see Koyo. I have never seen it.
 M: OK.
 R: I'm interested in Japanese history. I have studied it for three years.
 M: I see.
 R: I've skied for five years. I want to do it in Japan.
 M: Uh-huh.
 R: I bought a digital camera(デジカメ), so I want to take pictures of koalas.
 M: I see.
 R: And I want to see a baseball game at the stadium(球場).
 I have seen it once in Canada.
 M: OK.
 R: I want to see the sunrise at the beach. It's not easy for me to get up early, so I have never seen it before.
 M: I see.

4 案内する(してもらう)場所を決める場面

M: Now, where shall we go?
 How about Minamichita? You can see the sunrise at the beach, and dolphin show at the Beachland.
 R: OK, let's go!

中学校段階における TSLT (Task Supported Language Teaching) シラバスを基にした英語指導の研究

資料 6 : 確認テスト①②

注) < >で示された文法構造は実際のテストには記載していない。

確認テスト① (現在・過去・現在完了)

問) 次の英文の()に当てはまる最も適切な英語を、①～③の中から1つだけ選び、解答欄に書きなさい。

テストに取り組み全生徒が場面を正確に把握できるように、対話文の一部を日本語にしてある。

(1) A: ねえ、今度の休みに東京ディズニーランドへ行こうよ。
B: Well, I () there. So how about Okinawa?
① go ② went ③ have been <現在完了・経験>

(2) A: 昨日デートしたんだって?
B: Yes, we () to the movie.
① go ② went ③ have gone <過去>

(3) A: ピアノが上手ですね。
B: Thank you. I () for five years.
① play ② played ③ have played <現在完了・継続>

(4) A: 彼って本当にオーストラリア好きだよな。
B: Yes. He () five times.
① go there ② went there ③ has been there <現在完了・経験>

(5) A: 今からCDショッピング行かない?
B: Sorry, I (), so I can't go out. I have to finish it.
① don't finish my homework ② didn't finish my homework
③ haven't finished my homework <現在完了・完了>

(6) A: 週末は何時に起きてるの?
B: I () up at ten.
① get ② got ③ have got <現在>

(7) A: ボブはいつアメリカに帰るのかな?
B: He () to America.
① goes ② went ③ has already gone <現在完了・完了>

(8) A: きみのかばん、格好いいね。
B: Thank you, but it is old. I () this for a long time.
① have ② had ③ have had <現在完了・継続>

(9) A: あなたのお兄さん元気? 東京生活長くなったわね。
B: Yes, he () there for three years.
① lives ② lived ③ has lived <現在完了・継続>

(10) A: 遅いなあ。もう10時10分だよ。10分の遅刻だよ!
B: I'm sorry. I () up at nine thirty.
① get ② got ③ have got <過去>

(11) A: ()
B: まだだよ。今から食べようと思ってたところだよ。
① Do you have lunch? ② Did you finish lunch? ③ Have you finished lunch yet? <現在完了・完了>

(12) A: 夏休みの旅行なんだけど、ディズニーランドはどうか?
B: Well, I () with my friend last year.
A: So where would you like to go?
① go ② went there ③ have been there <過去>

(13) A: あなたのお兄さん数学が大好きみたいだね。
B: Yes, he () math every day.
① studies ② studied ③ have studied <現在>

(14) A: あゆみのお兄さんって感じのいい人らしいけど、知ってる?
B: No, I () him. I want to meet him someday.
A: 私も。
① don't meet ② didn't meet ③ have never met <現在完了・経験>

(15) A: 土曜の午前中は、いつも何してる?
B: I () to CDs.
① listen ② listened ③ have listened <現在>

注) < >で示された文法構造は実際のテストには記載していない。

確認テスト② (現在・過去・現在完了)

問) 次の英文の()に当てはまる最も適切な英語を、①～③の中から1つだけ選び、解答欄に書きなさい。

(1) A: 卒業旅行は行ったことがないところへ行きたいよね。ディズニーランドとかいいんじゃないかな。
B: Sounds good. I () there. I want to see Mickey Mouse.
① don't go ② didn't go ③ have never been <現在完了・経験>

(2) A: どうして、昨日塾に来なかったの?
B: I () to the movie.
① go ② went ③ have gone <過去>

(3) A: 彼はドラゴンズのこと詳しいね。いつからファンなのかな?
B: I don't know. But he () a big fan of Dragons for a long time.
① is ② was ③ has been <現在完了・継続>

(4) A: またカナダ行くんだよね。何回くらい行ったことがあるの?
B: I () five times. I have many friends in Canada.
① go there ② went there ③ have been there <現在完了・経験>

(5) A: ()
B: まだだよ。一緒に食べに行こうか?
① Do you have lunch? ② Did you have lunch?
③ Have you had lunch yet? <現在完了・完了>

(6) A: いつも寝るのは2時頃なんだ。
B: Really? I () to bed at ten.
① go ② went ③ have gone <現在>

(7) A: エイドリアンはいつカナダから帰ってきますか? 早く会いたいなあ。
B: He () back.
A: 本当? 今から会いに行ってもいいですか?
① comes ② came ③ has just come <現在完了・完了>

(8) A: いつもそのペン使ってるね。気に入ってるの?
B: Yes, I () it for a long time. My father gave it to me for my birthday.
① use ② used ③ have used <現在完了・継続>

(9) A: 優子さん元気かな? アメリカでの生活も長くなったよね。
B: Yes, she () there for three years.
She is teaching at a high school in New York now.
① lives ② lived ③ has lived <現在完了・継続>

(10) A: タケンを見なかった?
B: Well, I () him in the library after school.
Oh, look! He is playing soccer over there.
① see ② saw ③ have seen <過去>

(11) A: 英語の宿題終わった? 今から遊びに行こうよ。
B: Sorry, I () it. Can you help me?
① don't finish ② didn't finish ③ haven't finished <現在完了・完了>

(12) A: 昨日はあれから図書館へ行ったの?
B: Yes. I () my Japanese homework there.
① do ② did ③ have done <過去>

(13) A: 健康のために何か食べてる?
B: I () an apple every morning.
① eat ② ate ③ have eaten <現在>

(14) A: パンダが動物園に来たらしいよ。
B: Really? I () it. I really want to see it someday.
A: 一緒に見に行こうか?
① don't see ② didn't see ③ have never seen <現在完了・経験>

(15) A: 日曜の朝は、いつも何してる?
B: I () TV.
① watch ② watched ③ have watched <現在>